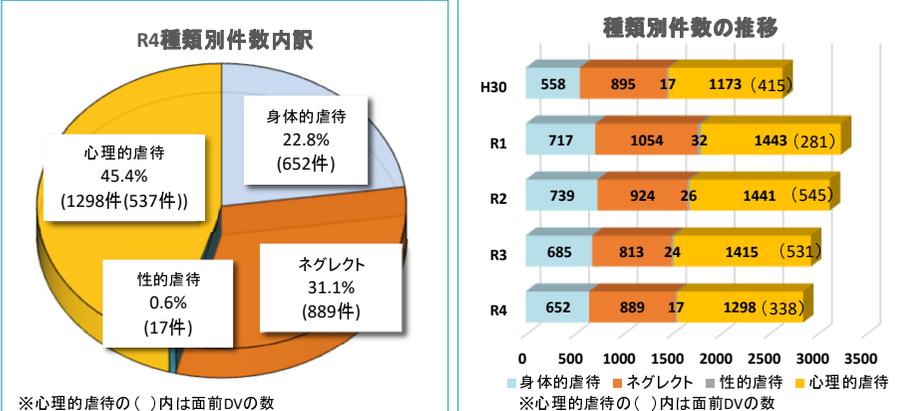


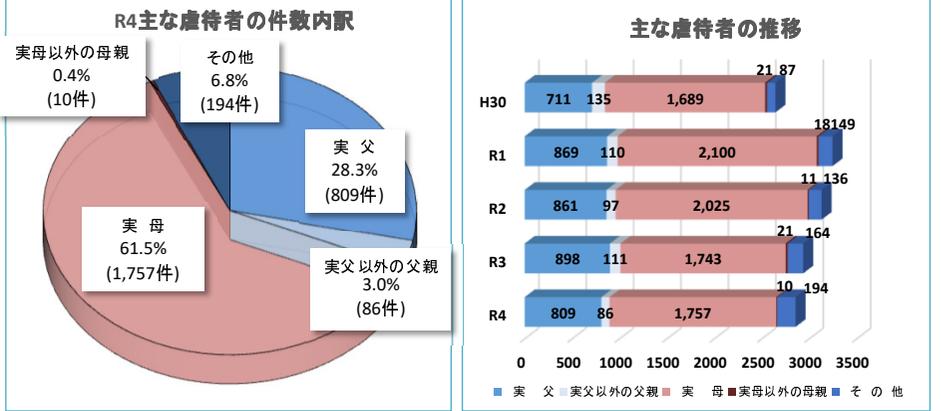
令和4年度 児童虐待相談の状況について (市町村受付)

主たる虐待の種類



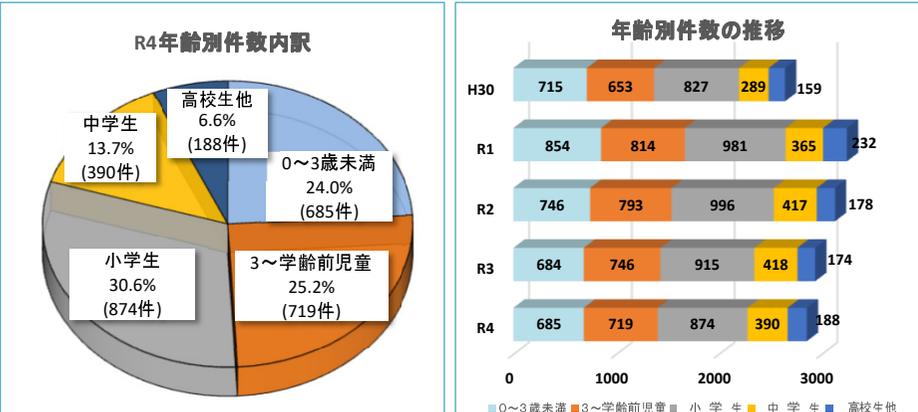
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比べると、「身体的虐待」(33件減・4.8%減)、「性的虐待」(7件減・29.2%減)、「心理的虐待」(117件減・8.3%減)で減少がみられた。一方、「ネグレクト」は増加した(76件増・9.3%増)。

主な虐待者



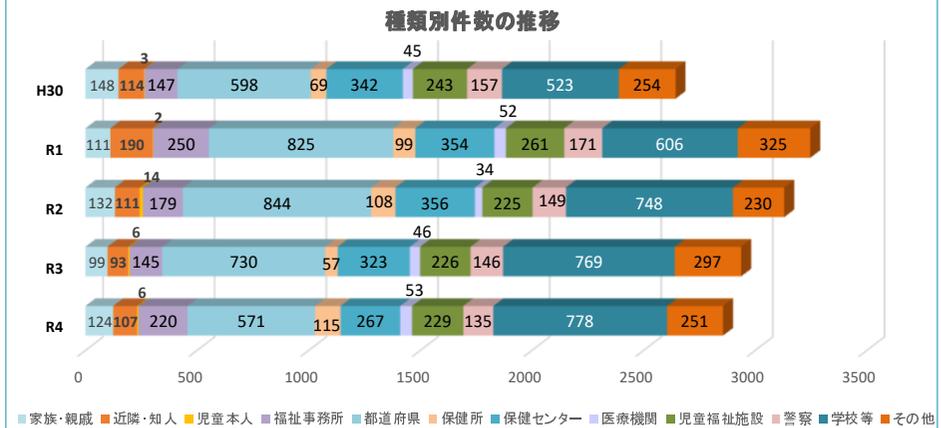
「実母」の件数が最も多く、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の約9割を占めている。前年度と比べると、「実父」(89件減・9.9%減)、「実父以外の父親」(25件減・22.5%減)が減少したが、「実母」の件数は微増(14件増・0.8%増)した。

被虐待児の年齢



「0歳～学齢前」の児童の件数が、全体の約半数を占めており、前年度と同様の傾向がみられる。「高校生他」で微増(14件増・8%増)したが、その他の年齢では件数が減少しているかほぼ同様となっている。

虐待通告の経路



「都道府県」で減少が見られたが(159件減・21.8%減)、「福祉事務所」(75件増・51.7%増)や「学校等」(9件増・1.2%増)の件数が増加した。令和3年度に引き続き、「学校等」からの通告件数が一番多く、次いで「都道府県」「保健センター」の順に多い。